



学校だより

彩雲燦燦



私が大学2年生の夏休み、イギリスのロイヤルオペラの日本公演が東京と大阪の2か所で行われました。世界で活躍するオペラ歌手も憧れるロイヤルオペラ。何としてでも観たい、聴きたいと思い、大阪まで行きました。そのときのプログラムが「トゥーランドット」(プッチーニ作曲/イタリア)でした。ホールに一步足を踏み入ると、開演前の暗いステージに真っ赤な照明があたり、何とも言えない不気味さを感じました。そして、音楽が始まると同時にステージ上方から投げられた、床まで垂れ下がる何本もの赤い布はまるで血のようで、物語の背景を表すインパクト絶大の演出でした。私がオペラを



生で観るのも、聴くのもこの時が人生初。終始興奮していましたが、何より印象的だったのが、「トゥーランドット」に登場するカラフ王子のアリア「誰も寝てはならぬ」という曲でした。秘めやかでミステリアスなメロディで始まる「誰も寝てはならぬ」。カラフ王子のトゥーランドット姫への愛が広く深くまっけていくことを表現するように、強く壮大で昇華していくような美しい音楽は、私の心にとても大きな衝撃を与えました。その「トゥーランドット」を、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックで銀メダルを獲得したフィギュアスケート鍵山優真(かぎやまゆうま)選手のフリー演技で使用していました。鍵山選手のトゥーランドットの物語を感じさせる演技はとても素晴らしいものでした。途中のジャンプを失敗するという場面があったにも関わらず、自分で挑戦すると決めていた難しいジャンプから逃げず、そして最後まであきらめずに滑り切ったからこそこの2大会連続銀メダル。「もう無理かも」と思うのか、それとも「自分で決めたことを最後まで諦めない」と奮起するのか。これまで精一杯力を尽くしてきたと言えるからこそこの「自分で決めたから最後まで諦めない」という決意。だからこそ、鍵山選手の表彰台での姿には、清々しさと次への希望に溢れていたのだと感じました。日本の選手が大活躍しているミラノ・コルティナ冬季オリンピック。磨かれた技はもちろん、オリンピック出場に至るまでの選手それぞれの葛藤や強い思い、その選手でなければわからないだろう困難への挑戦、すべてを極めようとしているのが手に取るようにわかる発せられる言葉や振る舞いなどは、私たちに大きな感動と深い学びをもたらしてくれます。自分が思い描く「なりたい自分」になるための刺激やヒントがたくさんあるはずです。

太宰府市では、文化、芸術、スポーツなどの分野において顕著な功績をおさめた若者に対して「世界に羽ばたく

みんなには大きな翼がある！～世界に羽ばたく人材育成表彰～

人材育成表彰」を行っています。2月8日(日)に、4回目となる「令和7年度世界に羽ばたく人材育成表彰」の表彰状授与式がプラム・カルコア太宰府にてありました。太宰府西中からも数名の生徒が表彰され、自分に関わった皆さんへの感謝とこれからの決意を堂々と語っていました。その姿を見て、未来への明るい希望の光が降りそそいでいるように感じました。誰もがもっている未来への可能性という大きな翼。その翼を広げるために、今という一瞬を大切に、そして一つ一つに誠実に精一杯向き合っていきたいと強く感じた時間でした。



未来を自分の力で切り拓くために～高校出前授業&職業講話～

「未来」とは、現在(今)の後に来るもの。自分の未来を創っていくのは、自分自身。その自分自身が現在(今)をどう生きるのか。1年生は、2月10日(火)に5つのコース(公務員、美容師など)に分かれ、講師の先生方からご自身の仕事の魅力や仕事に向かう



気持ちなどを直接聞くことができました。また、2年生は2月13日(金)に公立・私立合わせて7校から高校の先生をお招きして授業をしていただきました。3年後、5年後、10年後の「未来の自分」を考えるきっかけになりました。